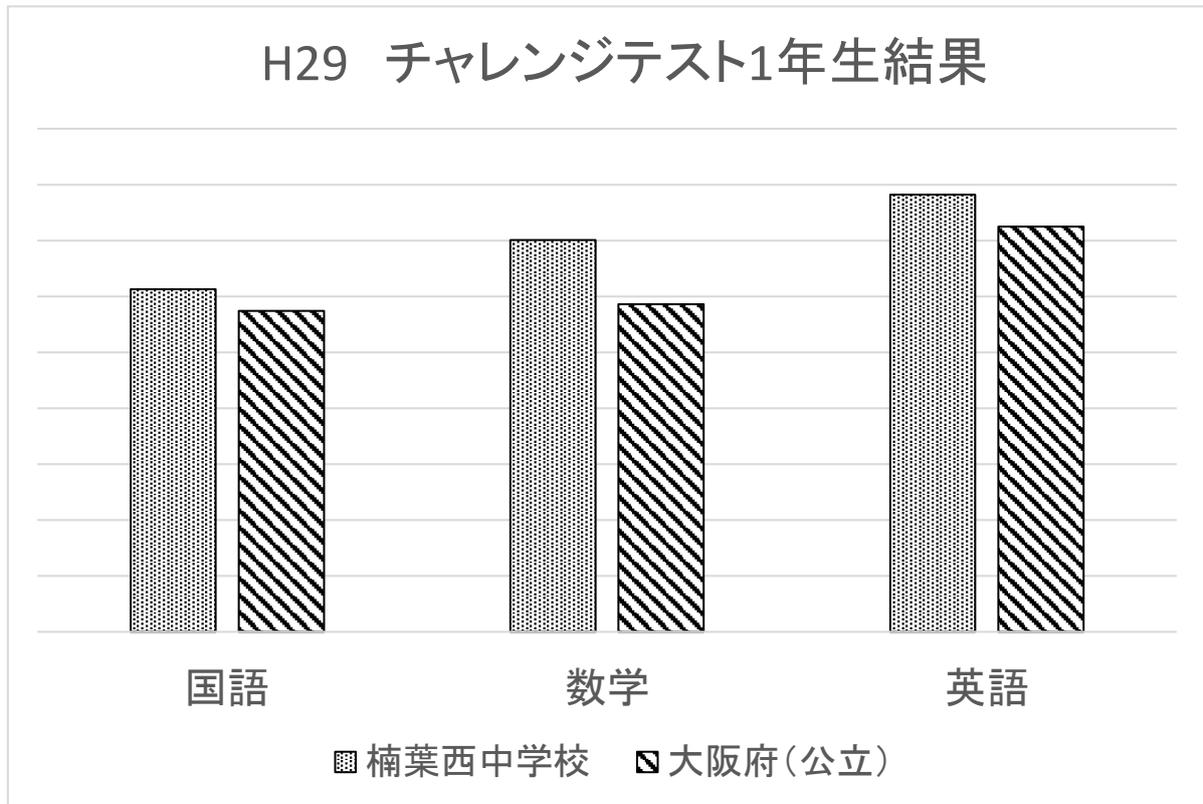


枚方市立楠葉西中学校

H29年度 チャレンジテスト分析結果



1年生 (国語科)

【分析】

- ほとんどの問題が府平均を上回った。
- 特に、「話すこと・聞くこと」の領域に該当する問題の正答率が高い。
- 府平均を下回っている問題は漢字や古語単語などの基礎的な言語事項であった。

【成果】

- 前の時間の授業の振り返りをペアでの教えあい学習にしたり、4人班での話し合いの場を多くもったりしているので、その成果が出たと考えられる。

【課題】

- 小学校で習った漢字が身につけていない。
- 古典の授業で歴史的仮名遣いの学習はしたが、定着はしていない。

【対策】

- 家庭学習 BOOK の問題や長期休暇中の宿題に小学校で学習した漢字の復習をさせる。
- 古典の授業では、歴史的仮名遣いや古語単語の小テストをするなどして定着を図る。

1年生 (数学科)

【分析】

すべての分野において、府の平均を上回っていた。

特に、垂線の作図や垂直二等分線に意味を理解しているかなどの基本的事項、数量の関係や法則など、変数と変域の意味を理解することや、式を用いて表し、数量の関係を捉えることの問題の正答率が高かった。

【成果】

反比例の問題の出来が他の問題と比べてよく、大きく上回っていた。少人数指導と4人班の教え合い活動を行っている。その中で、まず自分1人で考え、他者に説明できるように問題を整理し、4人班に移行し活動していたため、その成果があらわれた。

【課題】

2年生になって少人数指導がなくなっても、きめ細かい指導を続けることが求められる。また、4人班活動でのルールの徹底や教え合いの活動で解き方の理解ではなく考え方の理解をする指導が必要である。

【対策】

学年全体が落ち着いて授業に取り組めているので、継続していく。
全体にルールが定着するまで繰り返し指導し、「解く力」以上に「考え・理解する力」を伸ばすことで初めて解く問題に対し「考える」→「理解する」→「説明する」力を身に付けていく。

1年生（英語科）

【分析】

すべての分類・区分において大阪府平均を上回った。特に書くことに関する平均点が高かった。英語の記述問題が良くできていた。

【成果】

普段から英問英答に取り組んでいる。ペアワーク、グループワークの中で、英語を話す・聞く活動に取り組めた。またプリントなどもグループで取り組んでいるのでその成果も出たと考えられる。

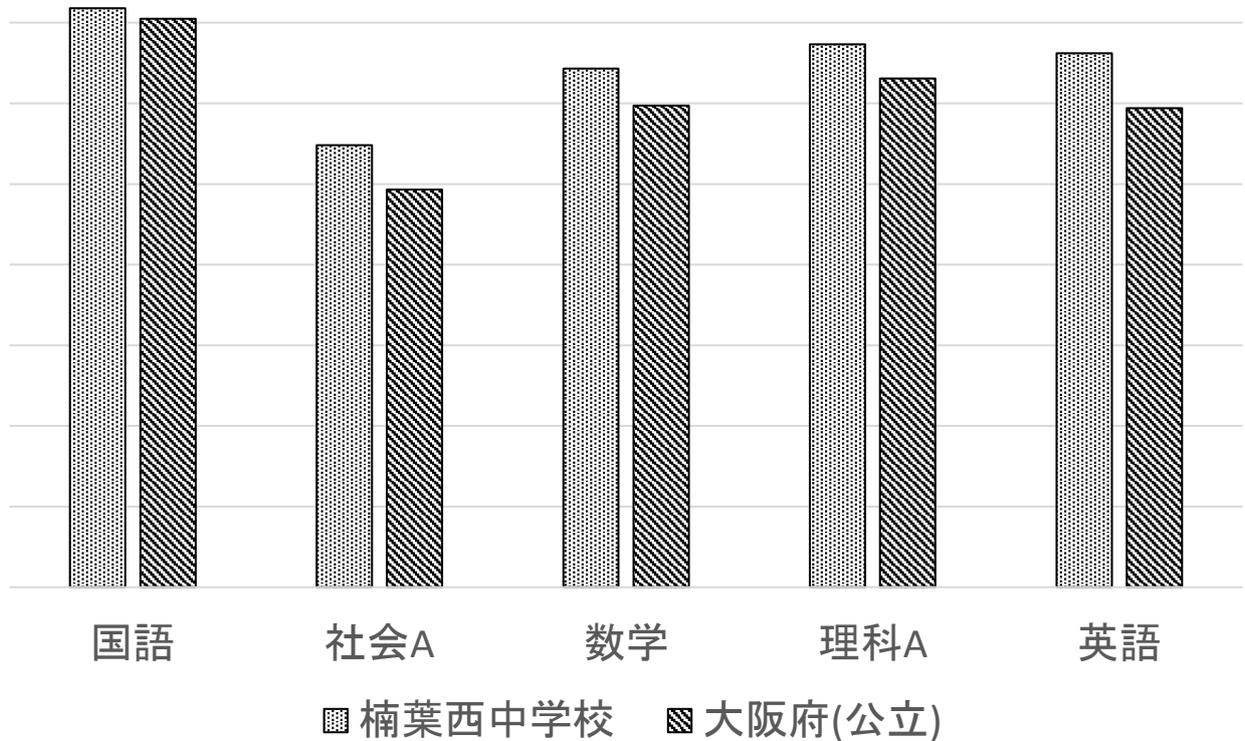
【課題】

聞くことに関する問題に課題がある。英文を聞き英語の資料を見比べて解答する力が必要である。

【対策】

NETの授業での英語の聞き取りや普段の授業の中でのクラスルームイングリッシュなどを通して聞き取る力を付ける。定期テストなどでは、英文などの資料を見て、解答するようリスニングの課題に取り組む。

H29 チャレンジテスト2年生結果



2年生（国語科）

【分析】

対義語や歴史的仮名遣いが大阪府の平均を下回っていた。学習をしてから時間が経っていたため忘れていたのではないかと。

文章やグラフを読み取り、適切な答えを選択肢から選ぶことはできている。読解に関しては十分にできている。

【成果】

文章からの読み取りなどは十分な力を付けられている。また、漢字の書き取り、読みに関しても良くできていた。

【課題】

対義語や歴史的仮名遣いなどの知識が定着していなかった。

【対策】

古典や対義語などの言語知識が、その場限りで定着していなかった。来年度は定期的に言語知識を学習することで、知識の定着を図りたい。

2年生（数学科）

【分析】

すべての分野において、府の平均を上回っていた。

特に数学的な見方や考え方の観点、記述式の問題においては、対府平均、1年生時と比較しても大きく上回った。

ただ、数学的な技能の観点では対府平均との比較では上回っているが、1年生時と比較すると下回っている。

【成果】

授業において4人班で教え合いを活用したり、説明を書いたりする指導を丁寧に行ったため、応用問題である数学的な見方や考え方を問う問題や、記述式の問題に前向きに取り組み、正答する生徒が増えたと考えられる。

【課題】

1年生時の対府平均と比較して、関数分野や数学的な技能の観点がやや下がり、課題があることが分かる。特に単項式の計算など、基本的な計算問題でできていない問題があり、応用問題に取り組むだけでなく、基礎知識・計算力をつける必要がある。

【対策】

普段の授業や宿題、家庭学習の中で計算力をつけていく時間を確保する。また、4人班を活用し、計算の仕方や考え方で分からないところを聞き合い、説明する力を着けていく。

今後も考えや説明を書く指導を続け、生徒間で説明し合う学習を取り入れていく。

2年生（理科）

【分析】

今回範囲となった化学分野・地学分野・生物分野では、大阪府の平均を上回り、また、設問形式や観点別の点数においても、大阪府の平均を上回っている。

【成果】

平成29年度は、本校では理科Bを選択したが、天気の範囲において、全問で大阪府平均を上回るなど、成果があった。また、本校では、実験の充実を教科の目標に掲げており、実験技能に関する問いでは特に成果があった。

【課題】

前述した通り、実験技能を問う問題については成果があったが、さらに一步踏み込んだ応用力を問う問題については課題があった。また、一年生で学んだ指示薬の性質などに課題があった。

【対策】

3年間の範囲を通して実験の充実は続けると共に、考察を重視し、科学的な思考・表現を伸ばすような授業を展開したい。応用問題については、実際の入試問題や難易度の高い問題を授業でも取り入れ、4人班を活用し、取り組ませたい。

2年生（社会科）

【分析】

社会科は大阪府の平均を上回ったが、特に歴史分野において力を発揮させていた。また、観点別では、『知識・理解』を問う問題が正答率は高かった。一方で、『資料活用の技能』を問う問題の正答率が低かった。

【成果】

歴史的な分野について、直近で学習した内容が中心だったこともあり、知識・理解を問う問題を中心に、

思考判断を問う問題などもよくできていた。特に設問3(江戸時代)は、どの設問においても府平均を大きく上回る正答率であった。各單元において、適宜個人や班で考え、文章にまとめる時間を設けたことも結果につながったと考えられる。

【課題】

地理的分野については、2年生の前半に学習したこともあって、抜けてしまっているものが多かった。また、記述式の問題については、他に比べて極端に正答率が低かった(設問2(4),(6)②)。無解答率が高いわけではないので、自分なりに考えて書こうと努力をした様子は伺えるが、設問の意味を理解できていない生徒が多かったと考えられる。

【対策】

宿題や授業の中で適宜復習する機会を入れて、学習した内容の定着を図る。また、記述式については、3学期から取り組み始めていることもあるので、これからも継続して行っていきたい。資料活用の技能については、教科内で早急に取組の方向性を考えていきたい。

2年生 (英語科)

【分析】

すべての分類・区分において大阪府平均を上回った。

聞くこと・書くことの対大阪府平均では、1年時より値が上がっていた。観点別では、知識・理解の平均点が大阪府平均を大きく上回ったが、表現の能力では1年時より下がっており、記述の問題での課題が見られる。

【成果】

4人班を活用した問題演習やグループでの話し合い活動によく取り組んだことが、知識・理解につながった。

【課題】

書くこと、表現の能力では、熟語を正しく答える問題や、会話の内容にあわせて英文を答える問題の正答率が比較的低かった。

【対策】

知っている知識や熟語を実際に使ったり、会話の中でふさわしい形に直して当てはめるなど、その場面をイメージして英文を書いたり、話したりする練習が必要である。